

9月8日（日） 研究発表2 第1室（1120）

英語教育におけるキャリア教育プログラムの試み

The Trial of the Career Education Program in English Language Teaching

帝京大学福岡短期大学 岩田京子

Kyoko Iwata, Teikyo University Fukuoka Junior College

kyoko@kyu-teikyo.ac.jp

1. はじめに

大学生の英語学習の動機づけの低さ、意欲の低下は多くの英語教員の共通した悩みと言えるだろう。Yashima(2000)の研究からも、英語学習について特定の目的、目標のない大学生が多いことがわかる。本研究は、大学生に将来のキャリアを意識させることにより、現在の英語学習の目的、目標を明確にし、動機づけを高め、それにより英語力の伸長を望むことができるという考え方の基に、英語教育の分野にキャリア教育の手法を導入する試みに関する報告である。

2. キャリア教育プログラム

2-1 目 標

本プログラムの目標は次の5点である。

- (1) 学習者が自分の将来における英語の重要性を認識できる
- (2) 学習者が明確な英語学習の目標（定量目標、定性目標）を設定できる
- (3) 学習者が具体的な英語学習プランをたてられる
- (4) 英語学習のプランを着実に実行できる
- (5) 英語学習プランの実行後のフォローアップを自らが行うことができる

2-2 キャリア教育プログラムの流れ

本プログラムの流れを次ページにフローチャートで表した。

Self-Awareness：自分の過去を振り返り、当時の理想の職業、志向などを考える

Envisioning：今までの英語学習を考え、それが将来とどう関わるか考える

Career Studying：将来の仕事と英語との関係を明確にする

Personal Planning：将来の個人的計画と、それに対して現在何ができるかを明確にする

Goal Setting：上記を踏まえて、具体的な英語学習の目標設定をする

Action Planning：目標達成を目指して、具体的に計画をたてる

2-3 アクティビティシート

本プログラムのために6枚のアクティビティシートを作成した（紙面の関係上、ここでは割愛）。その内容、使用方法、回数、注意事項等については、発表の際にアクティビティシートを提示しながら、説明を行う。

2-4 本プログラムの効果

小規模の事前実施でのクラス観察では、英語学習者たちにおおむね好評であった。平成

9月8日（日）研究発表2 第1室（1120）

14年度4月から7月にかけて、より多くの学習者たちにこのプログラムに参加してもらい、その成果を詳細に報告する。

3. 今後の展開

3-1 将来的展望

より実践的キャリア教育としてインターンシップ（就業体験）がある。平成14年度夏までに福岡県内の全ての四年制大学で実施が予定されている。英語が必要とされる職場での体験は、大学生が職業と英語学習の関係をよりはっきりと実感させるものとなるであろう。将来的には本プログラムの中にインターンシップを導入したい。

3-2 研究課題

(1) 本プログラムは、英語を専攻する短期大学の学生を対象にして作られたものである。専攻、英語力などが異なるさまざまなタイプの英語学習者にも機能するのだろうか。

(2) 本プログラムは、英語学習の一環として英語教員が実施することを想定しているが、専門教科の教員が行う可能性は考えられないか。どちらがより効果的であろうか。あるいは、双方の教員で行う team teaching はどうだろうか。

4. おわりに

キャリア教育はまだ耳慣れない言葉かもしれない。しかし、現在日本の大学の約7割の大学でキャリア教育に類する講座が開かれており、その成果に関する報告もなされている。英語教育の分野にもその成果を応用することが期待できる。

〔参考文献〕

Yashima T. Orientations and Motivation in foreign Language Learning: A Study of Japanese College Students. *JACET Bulletin*, 31, 121-133.

The Flow Chart of the Career Education Program

